

第80回
日本整形外科学会学術総会

会長 中村孝志 (京都大学大学院医学研究科整形外科学)

会期 平成19年5月24日 (木) ~27日 (日)

会場 神戸ポートピアホテル他 (神戸市)

抄録集 I

The 80th Annual Meeting of
the Japanese orthopaedic Association
ABSTRACTS I

第1日 5月24日(木) C会場

8:00~9:00 教育研修講演 2

座長 加藤 博之 (信州大)

1-C-EL2 スポーツ選手の手・肘部傷害の治療兵庫医大整形 田中 寿一

9:45~12:00 シンポジウム 3

座長 山本 晴康 (愛媛大)

患者立脚の治療成績評価

落合 直之 (筑波大)

- 1-C-S3-1 治療成績評価基準を「科学的」に作るには?大阪市大公衆衛生学 廣田 良夫他
- 1-C-S3-2 QOL 評価: 臨床的, 社会的に意味のある差とは?京大大学院健康解析学講座 福原 俊一
- 1-C-S3-3 頸部脊髄症ならびに腰痛疾患治療成績評価の策定大阪南医療センター 米延 策雄他
- 1-C-S3-4 日本手の外科学会版 DASH, QuickDASH と手根管症候群質問票(CTSI)の計量心理学的評価
.....保健衛生大公衆衛生学 今枝 敏彦他
- 1-C-S3-5 肘機能評価法について筑波大大学院整形 西浦 康正他
- 1-C-S3-6 新JOAスコア(肩関節)関町病院 丸山 公他

1-C-S3-6

新JOAスコア(肩関節)

丸山公¹ 井川俊彦²

目的は, 患者立脚でvalidation studyをきちんと行い, 日本独自の国際的にも通用し, A4判1枚程度に収まる簡便な評価である。

【肩関節の特殊性】①病変は関節のみならず軟部組織を含めたもの, ②運動は複合的で, 肩甲胸郭間の動きとの総和である。さらに, 脊椎変形などの外因により容易に影響される。③疼痛は筋力や可動域に大きく影響。④ball & socket joint であるが, その安定性は大きく軟部組織に委ねられ, 安定性はその肢位により意味合いが異なる。

【現評価の問題点】①医師側の評価が主であり, ②評価にはbiasがかかる。③評価は煩雑で時間がかかり, 一般臨床家には敬遠されがちである。④疼痛, 可動域, 筋力, 安定性は相互に影響しあっているが, その影響が評価に考慮されていない。⑤可動域や筋力を数値で表し比較するのは同一患者間でしか意味がないが, 複数の患者間でその比較がなされている。⑥validation studyがされていない。⑦QOL評価がない。

【新スコア作成過程】日本独自の生活様式を含めたADL評価項目68項目の設問とVASによる安静時痛, 運動時痛, 夜間就寝時痛を加えた調査票をまず15歳から79歳の健常者(VASが3項目とも0)249名に回答してもらい, 達成率を95%以上と設定し, それに達しない16項目を削除した。さらに患者327名の回答を加え, 理解度95%未満のものおよび地域差がある5項目を削除し, 47項目とVASの3項目とした。また, 28項目の設問よりなるQOL評価を作成した。ADLおよびQOL評価の各項目の回答はリッカート式5段階とした。英語版を作り, trans-cultural adaptation作業を進めた。多施設での大規模調査を繰り返し, 医学統計学専門家の協力の下に統

計処理事業を進める。

¹関町病院整形 ²明海大歯学部数学